

グローバル化に備えて、英語を身に着けよう

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。皆さんは新年をどのようにお過ごしになられたでしょうか。私は、1月1日は、足利市にある足利織姫神社から初日の出を皆さんと一緒に見させていただきました。素晴らしい初日の出で、今年1年よい年になるかなと思いました。「初心忘るべからず」ですので、1月1日元旦に、今年はこのようにしようと誓ったことを、1年間やり続けたいと思います。
2. さて、今日の「開倫塾の時間」では、英語の話を少しさせていただきます。グローバル化が進展してくると、どんなことがあっても英語だけは身に着けたほうがよいと思います。子どもたちだけではなく、大人の方にとっても英語は大切です。特に、働いている方は英語によるコミュニケーション能力とパソコンのスキルだけはどうなことがあっても身に着けなければ、15年先に自分の仕事がうまくできるとは限りません。また、生活が豊かになるとは限りません。そこで今日は、英語についてどうしたらよいかを皆さんと一緒に考えていきたいと思います。
3. 英語には、読む・聞く・話す・書くという4技能があります。2020年の大学入試から、読む力・聞く力・話す力・書く力を評価する問題が同じ配点で出題されます。これは、英語を読む・聞く・話す・書くという4技能が、同じくらい大切で必要だということです。
4. その中でも一番大事なのは、読む力、読解力だと思います。「読めないことは、聞いてもわからない」といわれています。「こんにちは」「さようなら」ぐらいはわかりますが、込み入った話や読んでわからないようなことは聞いてもわかりませんよね。また、文章で書いてあるようなことは、話すのも、書くのも難しいですから、読んで理解することを大切にしたいと思っています。
5. 話は飛びますが、ハーバード大学というアメリカの大学で教えたことのある竹中平蔵さんという方が、「大変化 経済学が教える2020年の日本と世界」という本を1月5日に出されました。おもしろそうだなと思って読んでみると、日本人の英語について少し書いてありました。日本人は、英語を読むことも書くこともあまりできないとありました。ハーバード大学でも、日本の留学生は他の国の留学生に比べて読む力と書く力が圧倒的に劣っていたため、話す・聞くといった場面でも非常に苦労したというようなことが書いてありました。

6. 私も短期ではありますが、ハーバード大学の行政大学院の国際開発研究所の短期集中コースに3週間参加したことがあります。例えば、そこでは1日に90分の授業が4コマあり、授業ごとに100ページ以上の論文を読んでから授業に出るよという課題が出ました。全部はとても読めなくて、読めても15ページまで、よくても30ページまでで、本当に苦勞しました。読むことの大切さを実感しました。

7. では、なぜ読めないのかというと、これも理由は簡単です。中学校や高等学校、大学で英語を勉強しましたが、「英語の本を読みなさい」とはあまり言われたことがなかったと思うんですね。国語の力をつけるために本をたくさん読みなさいと言われて、毎週1冊とか1か月に1冊とかは日本語の本を読みましたが、英語の本を毎週1冊読んだことはなかなかなかったと思います。毎月1冊読んだこともなかったです。単語の数が非常に少ないような易しい本は読んだことがあっても、英語圏の方々が読むような普通の本は1冊通して読むことはあまりありませんでした。

8. おそらく多くの日本人の方も、私と同じように英語の本を何冊も通して読んだことはないと思います。英語もある程度の分量を読まなければ、どう考えても英語を読む力はつかないと思います。ですから、私もこれから少し頑張ろうと思いますので、皆さんも、ぜひ、はじめは、薄いものでよいですから、英語の本を1冊、最後まで読むことにチャレンジしていただければと思います。

日本人は大人も子供も英語がなぜできないかという、英語の本を1冊まるまる読んだことがないという方が大半だからだと思います。ですから、これから先英語を身に着けるのであれば、英語の本を易しいものから、1週間に1冊とまでは言いませんが、1か月に1冊ぐらいのペースでたくさんたくさん読んでいただきたいです。そうして英語の読解力をつけることが、一番大事ではないかと思います。

9. また、日本人は英語を話すのがうまくないとよくいわれます。この理由は、中学校の1年生から2年生の前半ぐらいまでは、先生から「英語の教科書を声に出して読みなさい」といわれると素直に読むことが多いですが、2年生の後半になると少なくなり、高校生や大学生になると全然声に出して読まなくなるからです。英語の文字を目で追っているだけでは、英語が身に着くことはあまりありません。特に、話す力が身に着くことはありません。英語で大事なものは、一度勉強した内容を声を出して読み、身に着けることです。これを音読と言います。音読練習を繰り返し繰り返し行くと、英語が口をついてスラスラ出てくるようになりますので、ぜひ行っていただければと思います。

10. 一度勉強した内容の音読練習に加え、本をたくさん読むことも大事であると思います。それから、英語の新聞、つまり英字新聞を意味がよくわかっているところだけでも読んでいただきたいです。さらに、英語のことばを調べるときには、初めは英語の意味が日本語で書いてある英和

辞典でもよいですが、少し勉強が進んだ方は英語で英語の意味が書いてある英英辞典を活用していただければと思います。

11. 聞くだけで英語がうまくなるか。聞くことは大切なので、どんどん、どんどんと英語をたくさん聞いていただいて、英語をうまくしていただきたいと思います。これは正しい考えだと思います。これに加えてお勧めしたいのは、シャドーイングです。これは、英語で聞いたことをそのまま口をついていってみることで、最初はなかなか難しいですが、慣れてくると英語がうまくなり、もっともっと英語が身に着きます。ですから、まずは英語を聞き、その聞いたことをそのままシャドーイング。口をついて出るまで練習することもやっていただければと思います。このほかにも、英語の勉強の仕方はたくさんあります。いくつかの仕方を組み合わせていただければと思います。

12. まとめますと、私が一番お願いしたいのは、英語の本をたくさん読むことです。英語の本を読む量が多ければ多いほど、英語を読む力、読解力がつきます。書き取り練習もたくさんしてくださいね。そうすると、聞く力も話す力も書く力もつきます。それにプラスして、英英辞典を引く・シャドーイングをする・英字新聞を読むことも組み合わせていただければ、素晴らしい英語の勉強になると思います。

13. グローバル化に備えて、私も頑張りますので、皆さんも英語の勉強をどのようにしたらよいかを考えてください。そして、自分がよいと思った方法をどんどんやってみていただければと思います。今日の放送で紹介したものを1つでもやっていただければ、素晴らしい1年が過ごせると思いますので、ぜひお願い致します。